

山梨日日新聞に、「子は褒められるほどへこたれない力が高い」という記事が載っていました。

そこで、この調査を行った国立青少年教育振興機構の調査結果をくわしく調べてみました。

「子どもの頃、家族の愛情・絆を基盤に、遊びに熱中するなど様々な体験をした人ほど、自己肯定感が高く、へこたれない大人になる。」というまとめでした。

これからの社会を生きていくには、多少の困難や逆境があっても、へこたれず前向きに生きていく力を身につけることが大切です。また、こうした力の源になるのは、自己の存在や価値を褒められ認められることで身につく自己肯定感です。

さらに、細かく見ていくと、自己肯定感を身につけるには、次の三つのことを子どもの頃に体験することが大事です。

①家族の行事やお手伝いを多くする。家族で誕生日のお祝いやクリスマス・季節の行事などを行うことは、家族を互いに認め合うことになります。また、お手伝いの機会を多くすることで、褒めることが多くなり、家族の愛情や絆を深めることにもなります。

②友だちとの外遊びを多くし、遊びに熱中させる。

友だちとの外遊びは、コミュニケーション力が自然と身につきます。また、熱中して遊ぶことで意

欲や達成感なども身につけることができます。さらに、友だちだけでなく地域の方と触れあう機会ともなり、褒められ認められることも多くなります。

③学校の委員会活動や部活動などに積極的に取り組ませる。

学校の委員会活動や部活動などで活動すると、友だちや家族・先生などから褒められ認められることが多くなります。中でも、学園祭の実行委員としての活躍は、活動を褒められるとともに、成功した達成感や充実感など、苦勞を乗り越えることで感じられる満足感を味わうことができ、自己肯定感も高くなります。

このように、家庭と地域・学校がそれぞれの立場で子どもたちに様々な体験をさせることが大事です。そして、子どもたちの活動や努力を見逃さずに、褒め認めていくことが重要です。それが、子どもたちのへこたれない力を伸ばし、自己肯定感を高めることにつながります。これからも今まで以上に、家庭と地域・学校が連携して、様々な活動を行っていくことを期待しています。

参考資料

山梨日日新聞

平成29年4月26日掲載

国立青少年教育振興機構

「子どもの頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」

連載・青少年健全育成シリーズ 第313回

「自己肯定感」

青少年の声かけあいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,300部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ：総務課 法制広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況は、下記をご参考としてください。

また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄